



## 東京都が地震に関する地域危険度の調査結果を公表しました

東京都都市整備局が2月15日、「地震に関する地域危険度測定調査」というものを公表しました。

東京都では東京都震災対策条例に基づき、地域危険度を行っています。この調査では市街地の変化を表わす建物などの最新データや新たな知見を取入れ、概ね5年ごとに調査を行っており、今回は第8回目の公表です。

今回の調査では、都内の市街化区域の5,177町丁目について、各地域における地震に関する危険性を建物倒壊危険度、火災危険度に加えて、災害時活動困難度を加味して、総合危険度というものを数値化して評価しています。

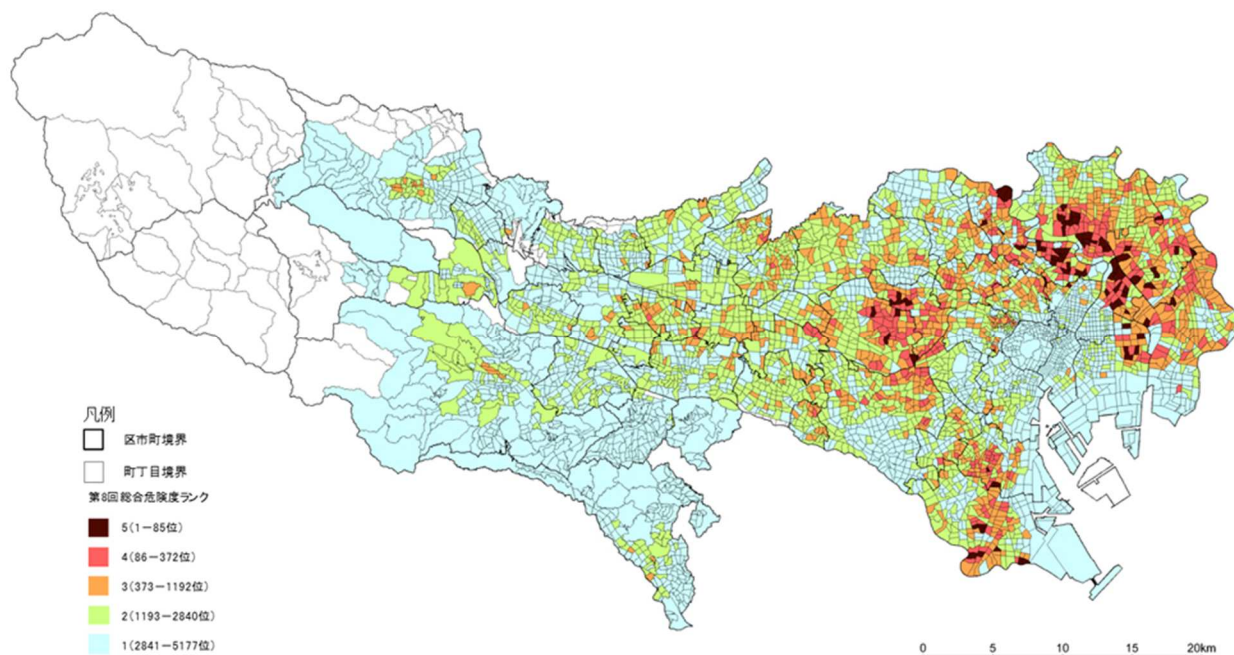
詳しいデータは、

[http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/bosai/chousa\\_6/home.htm](http://www.toshiseibi.metro.tokyo.jp/bosai/chousa_6/home.htm)

で公表されています。

総合危険度のランキング上位には荒川区や足立区、北区、江東区など、荒川や隅田川沿いの地区が多く入りました。都によると、揺れが大きくなりやすい地盤である上、古い木造住宅が密集しているため、他地域に比べて危険度が高いという判断になったようです。

ただ、危険度のランク付けは相対評価のため、都全体ではランク「5」の地区数は減らず、各地点の改善状況を正確に把握するのが難しいという側面があり、今後は絶対評価にしていく必要があると考えます。都内にお住まいの皆様はぜひご自身の居住地区の危険度がどのように評価されたか一度お調べ頂くのもいいのではないのでしょうか。





## 日本列島陸域に特化した地下天気図解析®

1月15日のニュースレターに引き続き、日本列島陸域に特化した地下天気図解析をお示しします。

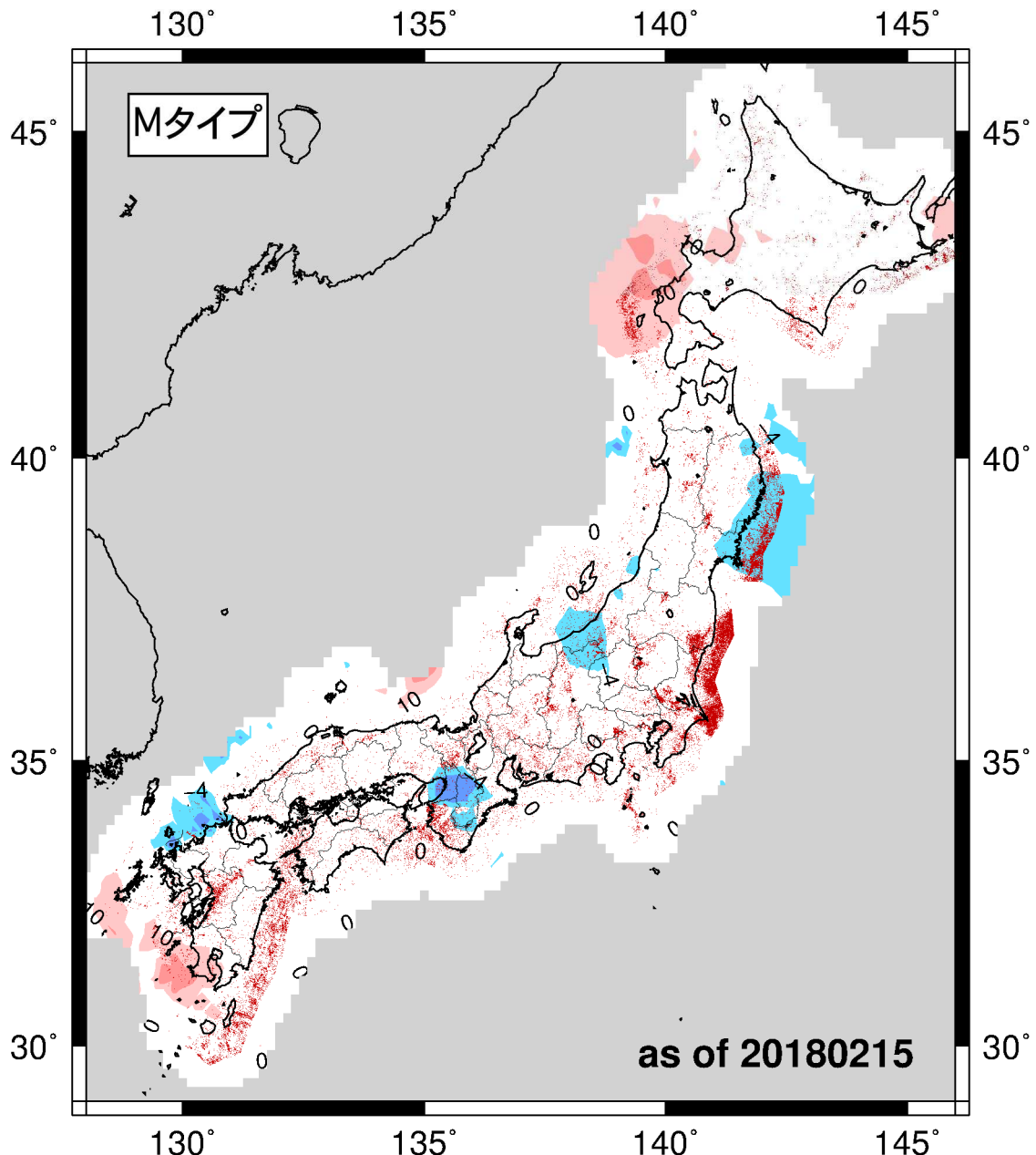
2018年に入ってから解析ではMタイプとLタイプという2種類の地下天気図をお示する事にいたしました。MタイプとLタイプの違いは何度か述べていますが、

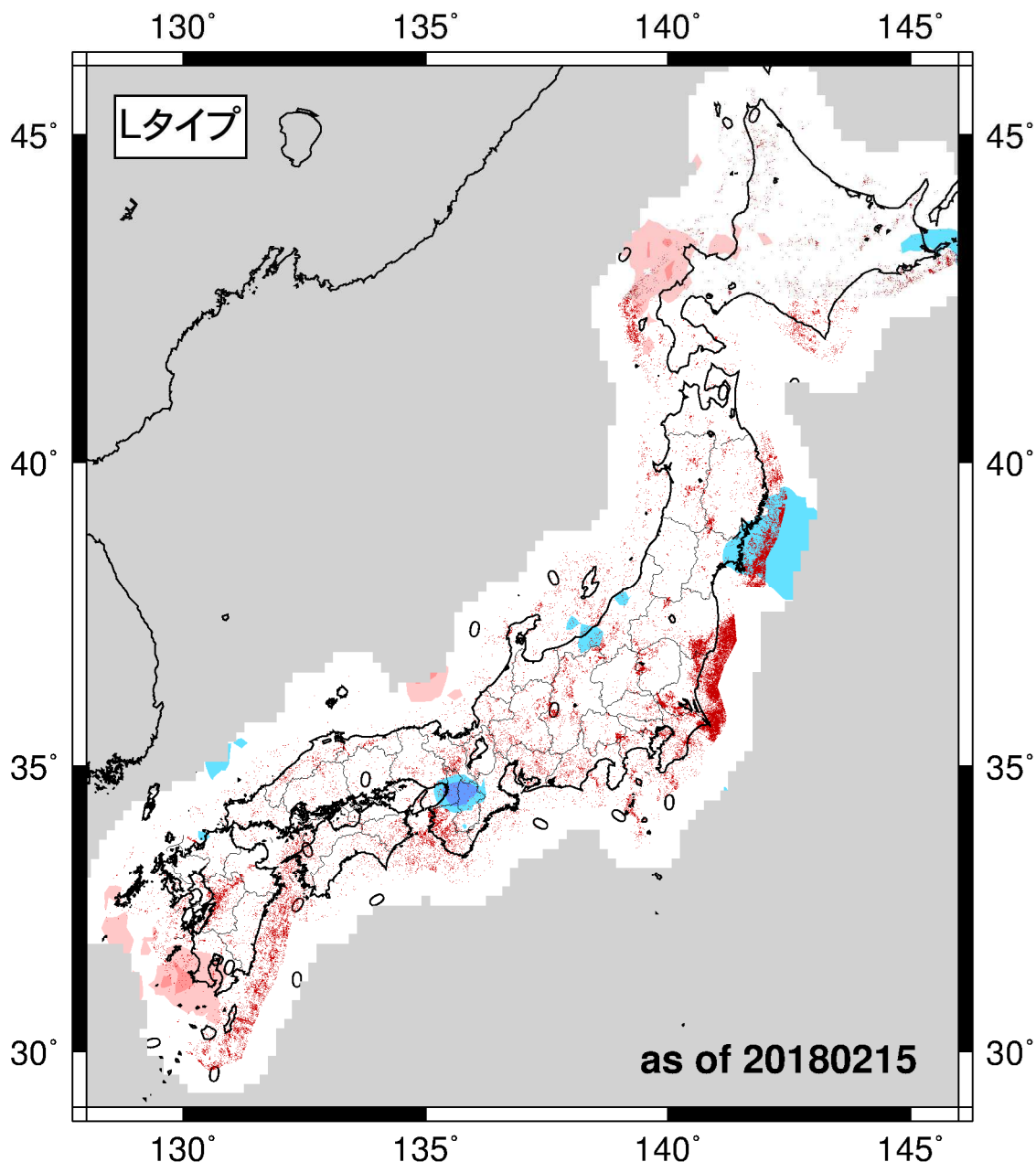
**Mタイプ:**異常の検出能力が高い、従って誤った異常(狼少年)を検出してしまいう事もある。結果として将来の地震発生の見逃しは少ない。

**Lタイプ:**異常の抽出感度は少し落ちるが狼少年(異常があった後に地震が発生しない)になりにくい。ただし地震発生が予測できない事(不意打ち)もありうる。

とまとめる事ができます。

下の地下天気図は2月15日時点MタイプとLタイプのものです。





前回のニュースレターでも小さな異常が現れていまいしたが、大阪を中心とした異常が目立つようになりました。これまでの地下天気図の推移から、

- 1) 中国地方西部から瀬戸内海にかけて
- 2) 北信越地域(関東北部を含む)
- 3) 岩手県を中心とした陸域ないし沿岸域(異常が続いているので発生はまだ先と推測)
- 4) 大阪を中心とした近畿地方(異常が続いているので発生は先と推測)

が今後の重要な監視ターゲットとなる地域です。また静穏化ではないのですが、北海道西方沖で地震活動が活発化しているのがちょっと気になります。ここは歴史的にも繰り返し津波を伴う被害地震が発生してきた地域なのです。